

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体			
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>									<b>3.1</b>
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能		集合住宅・ホテルの開口部を遮音性の高い遮音等級T-2を採用した	4.0	0.96	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		-	1.0	0.04	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	1.0	0.20			
1.3 吸音		-	1.0	0.04	1.0	0.02			
<b>2 温熱環境</b>									<b>2.7</b>
2.1 室温制御									
1 室温		-	3.0	0.59	3.0	0.62			
2 外皮性能		集合住宅およびホテル客室については、外壁・屋根・開口部の断熱性能を高め、外皮性能の向上により年間を通じて室内温熱環境の安定化を図っている	3.0	0.35	5.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		-	3.0	0.06	-	-			
2.2 湿度制御		-	3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		-	1.0	0.30	2.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>									<b>3.6</b>
3.1 屋光利用									
1 屋光率		屋光率は住宅共用部4.45%、住宅住戸部分4%以上	5.0	0.55	5.0	0.51			
2 方位別開口		-	-	-	3.0	0.27			
3 屋光利用設備		-	3.0	0.45	3.0	0.22			
3.2 グレア対策									
1 屋光制御		共用部分及び住居・宿泊部分共に庇やブラインド、カーテン等で屋光制御を行っている	4.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		-	3.0	0.14	3.0	0.15			
3.4 照明制御		-	3.0	0.23	3.0	0.25			
<b>4 空気環境</b>									<b>4.2</b>
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質		共用部はF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し住居部は住宅性能評価の等級3を取得する	5.0	1.00	5.0	1.00			
4.2 換気									
1 換気量		-	3.0	0.38	3.0	0.38			
2 自然換気性能		-	3.0	0.50	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		-	3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	4.4	0.04	-	-			
2 喫煙の制御		共用部に喫煙室を設置し十分な換気量を設定している	3.0	0.25	-	-			
5.0			5.0	0.75	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>									<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性		-	3.0	0.40	4.8	0.60			
2 高度情報通信設備対応		住戸専用部およびホテルにはブロードバンド1Gバイト以上の通信能力を整備している	-	-	1.0	0.05			
3 バリアフリー計画		-	-	-	5.0	0.95			
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観		-	3.0	1.00	-	-			
2 リフレッシュスペース		-	1.0	0.30	2.0	0.40			
3 内装計画		-	3.0	0.04	3.0	0.50			
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計		外装では塩害等に配慮した又、内装は維持管理しやすい仕上げを採用した	1.0	0.96	1.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		-	3.5	0.30	-	-			
4.0			4.0	0.50	-	-			
3.0			3.0	0.50	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.4	0.50	-	-			
2 免震・制震・制振性能		制振構造により内部設備の保護が図られているレベル5を確保している。	3.0	0.80	-	-			
5.0			5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数		住宅の品確法の劣化等級3を確保している	3.8	0.30	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	5.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数20年以上の仕上げ材+下地材を採用した。	2.0	0.20	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途に耐用年数のA,Bランクである給水管にポリエチレン管、排水管等に硬質塩化ビニル管を使用している	3.0	0.10	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	5.0	0.20	-	-			
3.0			3.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性									
1 空調・換気設備		-	3.4	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備		-	3.0	0.20	-	-			
3 電気設備		-	3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法		地震等の揺れに対して重要機器の機能を維持できる仕組みとした。	4.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備		CATV通信を採用し精密機器の設置場所を地下等の浸水の危険性がない位置とした。	4.0	0.20	-	-			

3	対応性・更新性		3.0	0.30	3.6	1.00	3.2
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.03	4.2	0.50	
	1 階高のゆとり	住宅の階高を3.27m以上、ホテルの階高3.4m以上でレベル5と評価した	5.0	0.60	5.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	飲食店は壁長さ比0.17でレベル4と評価した	4.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.03	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.95	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.4
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	標準入力法による。住棟平均UA値0.19~0.47、 $\eta_{ac}$ 値0.5~1.5である	3.4	0.20	-	-	3.4
2	自然エネルギー利用	-	2.1	0.10	-	-	2.1
3	設備システムの高効率化	住戸BEI値0.74(一次エネルギー削減率26%)で誘導基準を達成している	3.7	0.50	-	-	3.7
	集合住宅以外の評価		1.9	0.18	-	-	
	集合住宅の評価		4.2	0.82	-	-	
4	効率的運用		2.9	0.20	-	-	2.9
	集合住宅以外の評価		2.5	0.18	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	0.82	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.7
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	節水機能のある機器を採用している	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.9	0.60	-	-	3.9
	2.1 材料使用量の削減	コンクリート:Fc=60以上かつF=490以上、住戸床にプレストレスコンクリートを使用し材料の削減を行っている	4.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材2品目①高炉セメント②再生クラッシュランを使用している	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+下地材(LGS・木等)+仕上げ材が容易に分別でき再利用可能なユニット部材を使用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	不活性ガス消火剤を使用している	4.0	0.33	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1.0以下の発泡剤を使用している	5.0	0.33	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.33	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮	リサイクル建材の使用や省エネ対策によるBEI値の削減の取組によりLCCO2排出率を77%とした	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	横須賀市の指導基準を満たし、かつ必要な基準蓄雨高100mmを敷地内で確保している	5.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	建物利用者の駐車場・駐輪場を適切に設置し周辺の交通事情を調査し協議することにより駐車場からの出入り口等にも配慮した	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	0.50	-	-	
	2 振動	-	3.0	0.50	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-													
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	○	-	○	-	-	○	-	○			-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	○	○		○	○	-		○	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	-	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	-	-	-	-	2.0	-	2.0	2.0				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	4.0		3.0	-	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			1.0	1.0	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 0.5 η AC 1.5 η AH - 昼光率 4.5% 自然換気有効開口面積率 -
3.1.1 昼光率	昼光率 4.5%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/m <sup>2</sup>
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 75年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.27~4.3 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 17.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m <sup>2</sup>
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 - 建物緑化指数 -
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> - 断熱等性能等級 等級5相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m <sup>2</sup> 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -
3 設備システムの高効率化 非住宅部分 集合住宅の評価	BEI/BEI <sub>m</sub> 再エネ有 0.83 無 0.83 オフサイト再エネ有 - - 一次エネ削減率 再エネ有 26% 無 26% -
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 50未満
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1.0以下
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 - 隣棟間隔指標R <sub>w</sub> - 地表面対策面積率 - 屋根面対策面積率 - 外壁面対策面積率 - 見付面積S <sub>b</sub> - 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> - m 基準高さH <sub>b</sub> - m 緑地 m <sup>2</sup> 水面 m <sup>2</sup> 保水性対策面 m <sup>2</sup> 高反射対策面 m <sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m <sup>2</sup>